

タイル製品施工に関するお願いと注意点

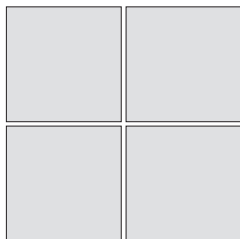
ラウンドスクエアモデルA

KZ2-145S-A KZ2-145B-A KZ2-145C-A

製品に関するお願い

- 1** 本製品は手づくりの要素が大きく、そこが魅力にもなっています。
やきもの特有の色幅や寸法誤差があります。(工業化製品ではありません。)
施工の際に製品寸法のバラツキを調整する程度の目地幅をお取り下さい。
突きつけで施工しますと寸法差が大きくなるためおすすめできません。
1mmの寸法差が10枚で10mmとなります。また、躯体の動きに追随できないため、剥離の原因になることがあります。

(参考)

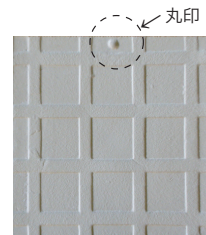
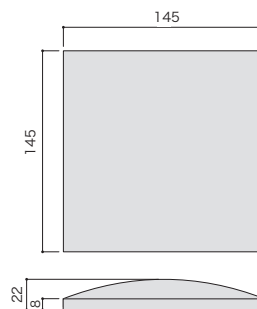


2mm程度の目地で調整した場合



突きつけ施工の場合

寸法差が生じる



丸印
ラウンドスクエアモデルA
タイル裏面

- 2** 製品の特性上、製品裏面の丸印の方向を合わせていただきますとより美しい仕上がりになります。(右のタイル裏面ご参照下さい。)

タイル張りについて

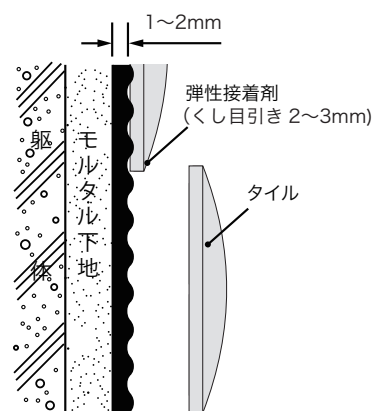
ボンドは弾性接着剤を推奨〈参考 セメダイン:タイルエースなど〉

- 1** 下地の表面状態を確認・調整

- ① 浮き、き弱層、ひび割れ等はないか確認。
- ② 下地面の清掃を行う。
(下地の汚れ、埃などの付着物があると下地と接着剤との接着が悪くなり不具合につながります。)
- ③ 下地面を十分に乾燥させる
(弾性接着剤は、モルタルと異なり下地が乾燥している必要がある。下地がぬれていると接着が悪くなります。)

2 タイル張り

- ① 接着剤は、くし目ごてを用いて必要量を塗布する。
- ② 接着剤の塗布面積は、接着剤の貼付け可能時間内に張り終える面積とする。
製品は手で揉み込む、振動工具(ヴィブラート)で押さえる等の方法で接着剤の張り付け可能時間内に張り終える。
*一液反応硬化形の接着剤は、開封すると空気中の湿気と反応して硬化が進むため、直ちに使用する。
*二液反応硬化形の接着剤は主剤と硬化剤が所定の割合となるように正確に計量して混合しないと本来の性能が発揮できない。
- ③ 下地と製品との接着状況を見るため、適時、製品をはがして確認する。
(その良否の判定は製品裏面への接着剤の付着面積が70%以上、かつ、製品裏面全体に均等に付着していることとする。)
- ④ タイル表面に接着剤が付着した場合は、硬化する前にシンナーなどの溶剤をウエスなどに染み込ませて拭き取る。この時、シンナーが接着剤にかからない様に注意するとともにタイルに無理な力が入らないように注意する。



安全に関する注意

- ・製品は雨露のあたらない場所に保管して下さい。
- ・降雨時、降雪時、及び強風時など施工に支障のある場合は施工を行わないで下さい。
- ・気温が5℃以下、及び5℃以下になると予想される場合は施工を行わないで下さい。

お願い: ① 製品に対する破損・クレームなどの連絡は、製品到着後1週間以内をお願い致します。

② 施工完了後のクレームは(張り替え工事費用なども)お受けできません。施工前に製品をご確認下さい。